

高校時代の部活動における悩みと支援の検討

～対処のプロセスとサポートのニーズに着目して～

井口 謙 (人間学群・教育学類)

指導教員 庄司 一子

I. 本研究の目的と方法

本研究は、高校時代の部活動において抱えた悩みへの対処に関して、対処に至る経緯や当時の葛藤、また力になった環境や望ましいサポート方法等を明らかにし、部活動において悩みを抱える高校生への有効な支援の方法を検討することを目的とする。

この目的を達成するため、大学生を対象に高校時の部活動の悩みと対処に関する質問紙調査とインタビュー調査を実施し、量的、質的な側面から検討を行った。

II. 構成

序章 問題の所在と本研究の目的

第1章 部活動の教育効果と学校適応に関する先行研究

第1節 部活動の教育的意義

第2節 部活動と学校適応

第3節 部活動の問題点

第2章 部活動におけるストレスと対処に関する先行研究

第1節 部活動における中途退部の要因に関する先行研究

第2節 部活動におけるストレスへの対処に関する先行研究

第3節 先行研究における課題

第3章 高校時代の部活動における悩みとサポートに関する調査

第1節 目的

第2節 方法

第3節 結果と考察

第4章 高校時代の部活動における悩みとサポートに関するインタビュー調査

第1節 目的

第2節 方法

第3節 結果

第4節 考察

終章 本研究のまとめと今後の課題

III. 概要

第1章では、部活動の教育効果と学校適応に関する先行研究を整理した。部活動内での人間関係は、部活動への適応度、さらに学校生活への適応度に大きく影響することが示された。

第2章では、部活動におけるストレスと対処に関する先行研究について整理した。いずれの研究も各要素に関して個人の内的過程のみから検討しており、対処に至る過程や周囲か

らどの様な支援を受けていたかに関しては明らかにされていない。悩みへの対処に至る経緯や当時の葛藤、また力になった環境や望ましいサポート方法等を明らかにし、有効な支援の方法を検討することが必要であると考えられた。

第3章では、量的調査に基づいて、高校時代の部活動における悩みと悩みへの対処、また当時抱えていた葛藤、さらには当時自分の力になった環境やサポート、サポートニーズについて検討した。調査対象者は大学生266名であった。その結果、部活動の悩みを抱える高校生にとって、自分の思いを聞いてくれた上で同意や協力をしてくれる人の存在が力になることが明らかになった。一方、悩みを抱えながら相談できない生徒の存在も明らかになり、働きかけの方法を検討する必要性が指摘された。さらに指導者からのサポートに対するニーズが高く、指導者の関わり方の改善が生徒にとって大きなサポート源になりうることが示唆された。

第4章では、質問紙調査協力者のうちから10名に対し面接調査を行った。面接の内容は全て逐語録が作成され、質問ごとにカテゴリ化を行った。得られた結果に基づいて、高校生の部活動の悩みに対処する際のプロセスモデルを作成した。その結果、主要対処の前対処として他者への相談が行われること、一方で他者の存在は大きな葛藤になり得ること、また、他者との関わり、他者からの支援が大きな力となり得ることがわかり、悩みを抱える高校生にとって他者の存在は非常に重要になることが示唆された。

本研究は、部活動に対して悩みを抱えた高校生にとって「他者の存在」が非常に大きな影響を持つことを明らかにした。悩みを抱える高校生への支援を検討する際、当人への理解・協力の姿勢を意識し、対処に向けた後押しとなるような働きかけを心がけることが重要になる。その際、当人が対処していきたい方向性を理解する必要があると考えられる。また、指導者からのサポートへのニーズが多く、指導者の働きかけが生徒にとって大きな意義を持つことが示された。

IV. 主要参考文献

洪倉崇行ら (2011). 高校運動部活動で不適応を示した中途退部者のストレス体験, 桜門体育学研究, 45, 2, 1-17.
青木邦男 (1998). 高校運動部員の学校生活適応感に関連する心理社会的要因 学校保健研究, 40, 411-424.